

1. 法人本部

(1) 全体統括

2023年度は第3期中期経営計画の半期が終了しました。各事業部の責任者等により進捗を管理し、計画をすすめてきています。具体的な成果としては十分と言えないまでも、少しずつ実感のもるものになってきています。しかしながら、人材マネジメントにおいては、年度当初に5名の新規正規職員を採用したにも関わらず、年度末までに8名の正規職員が退職（うち2名は休職事由による）することになり、大きな課題が残りました。

組織運営の体制強化と管理者育成に継続して取り組む中で、事業をとりまく環境変化にいち早く対応できるよう、各事業において経営改善への意識を高めてきました。物価高騰などへの対応には、府などを通じた対策支援も継続されましたが、建物や設備も整備や更新の時期と重なったことで、経営面で少なからず影響が残りました。

(2) 基本方針に基づく運営状況

①理念に基づいたトータルな人材マネジメントの実現

- ア. 人材獲得に特化したプロジェクトを立ち上げ、活動を開始しました。求人媒体や広報のトレンドなどを研究し、これまでとは違う視点でアプローチできるよう準備をすすめてきました。
- イ. 年間を通じて採用計画どおりにはいきませんでした。職場見学や説明会の希望には積極的に応じ、随時採用につなげました。
- ウ. 離職防止に向けた職場環境改善等に取り組んでいましたが、複数の退職を防ぐことができませんでした。
- エ. 人事評価制度の浸透に向けた取り組みと評価項目や評価視点などのアップデートに向けて検討を重ねました。
- オ. 所定外労働の削減については事業所ごとの取り組みが少しずつ浸透してきました。
- カ. 東京老人ホームとの合同研修を継続し、1月には対面でのセッションを行いました。

②積極的な業務改善をもとにした生産性の向上

- ア. IT導入補助金を活用し、介護支援ソフトの更新とタブレットを利用した記録ソフトの導入を行いました。
- イ. 公益財団法人 JKA の補助事業が採択され、特養の介護浴槽を更新しました。また業務用パソコンの更新を行いました。
- ウ. 業務プロセスの評価などを進める中で、業務省力化に向けた機器導入等の検討を行いました。
- エ. 業務の限定化、簡素化など業務分担をすすめ、障害のある方の雇用定着に取り組みました。
- オ. 看護師が行っていた夜間オンコール対応を外部業者に4月から委託しました。

③ガバナンスの強化による組織力とサービス品質の向上

- ア. これまでの事業部制の在り方を見直し、次年度から新しい組織体制を作る準備を行いました。
- イ. 保険者変更にとともなう地域包括支援センターの指定管理プロポーザルに応募し、受託することができました。
- ウ. 業務執行体制の課題を事業所ごとではなく、法人全体で対応できるよう各管理者でコミュニケーションをとってきました。
- エ. 全体職員研修としてのスピリチュアルケア研修は篠田美香氏（上智大学グリーンケア研究所）にマインドフルネスというテーマでワークショップを行いました。
- オ. 3月には実践報告会を開催し、3グループが報告を行いました。
- カ. 事故や苦情等を分析する苦情解決委員会は2023年12月と24年3月の2回実施しました。

④健全で安定的な財務規律の確立

- ア. 次年度からの介護報酬改定、保険者変更による地域区分変更などの対策として行ってきた市内の他社会福祉法人との連携や協働を通じて、事業継続していく上での課題を共有しました。
- イ. 事業実績に関する会議体を設け、継続して計画に対して毎月検証を行ってききましたが、事業に

より収益改善となったところと課題が残ったところに分かれる結果になりました。

イ. 収益性の指標であるサービス活動増減差額率は約6%でした。

ウ. 物価高騰対策補助金（総額570万円）により若干緩和はされましたが、水光熱費や食材費、また紙おむつなどの消耗品の価格改定により、昨年に続き事業費用が増えてきています。費用削減に対しての取り組みを全体ですすめてきました。

エ. 建築後10年が経過したことにより、設備機器類の更新が重なりました。

オ. すべての事業所で非常時（自然災害、感染症）の事業継続計画を策定しました。

カ. 地域交流イベントにおいて、災害時に使用する備品を実際に使用するなどして炊き出しや操作方法を確認しました。

（3）理事会・評議員会等

①2023年度に行われました、理事会・評議員会は以下のとおりです。

2023年 5月31日 第1回理事会 於：るうてるホーム

2023年 6月16日 定時評議員会 於：るうてるホーム

2023年 6月16日 第2回理事会 於：るうてるホーム

2023年11月29日 第3回理事会 於：るうてるホーム

2024年 3月29日 第4回理事会 於：るうてるホーム

②定時評議員会において、理事、監事が選任され、第2回理事会において理事長、常務理事の選任が行われました。

③監事監査は、2023年3月11日（オンライン）、5月22日に行われました。

（4）設備整備（10万円以上）

・ストレッチャー式介助浴槽 580万円

・パソコンの更新（7台） 72万円

・電気メーター交換 230万円

・厨房設備、消防設備、換気設備、自家発電機設備の改修等 220万円

（5）2023年度事業概要（2024年3月31日現在）

①実施事業数：17事業（うち四條畷市委託事業3）

（老人福祉法・介護保険法）

軽費老人ホーム（ケアハウス）、広域型特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護事業（総合事業含）、訪問介護事業（総合事業含）、居宅介護支援事業、地域包括支援センター

（障害者総合支援法）

多機能型（生活介護・就労継続支援B型）、居宅介護等支援事業、日中一時支援事業、短期入所事業、計画相談支援事業

（市委託事業）

シーツ包布貸与事業、外出支援移送サービス事業、生活支援コーディネーター事業

②総事業費 689百万円（22年度669百万円）

③職員数 135名（うち非正規・嘱託76名）

2. 委員会報告

（1）人材育成委員会

①活動方針

全職員が望む研修を実施できるように、委員会メンバーが役割認識を持ち、活動しました。研修内容の検討も、メンバー同士の意見交換を大切しながら行いました。また委員会は月一回の定例にしました。

②活動状況

2023年度は職員が望む研修内容を把握しました。その結果、コミュニケーション研修に関心がある事がわかり、「アサーション研修」を行いました。また、新人研修、介護技術研修も担当者を決

めて、研修を行いました。

③人材育成についての取り組み

ア. 新人育成研修7回、介護技術研修3回、アサーション研修2回、歴史、理念研修1回

イ. 法人内の研修が見える化できるように、次年度に向けてスケジュール管理表を作成しました。

(2) 危機管理委員会

委員会活動については担当制ですすめてきましたが、2023年度より定例で全体会議を設け、委員が互いの活動を意識できるよう努めました。

①非常災害対策の推進

ア. 今年度に法定上策定期限を迎えるBCP（事業継続計画）については、経過についてモニタリングを行いつつ、内部監査で策定状況を確認するよう計画しました。（監査の実施は2024年度）

イ. 避難訓練については2回実施しました。11月（夜間想定）は、消防署員立ち合いのもと実施し、制限時間を意識しながら避難訓練を行いました。3月（日中想定）には全事業所を対象に訓練を行い、火災発生時の初動や消火器の使用方法について確認しました。

ウ. 新たな取り組みとして、るうてるフェスタを活用し、地域の方々に非常災害に関する啓発（ミニ講話、防災用かまどの使用、福祉避難所についてのポスター掲示）を行いました。

②内部監査の実施

2023年度は新たな活動が立て込んだため、内部監査の実施時期は2024年5月とし、内容の企画をすすめるに留まりました。ケアプランや今年度に策定期限を迎えるBCP、各種指針などを重点事項とし、複数事業所を対象に監査を行うことを計画しました。

③安全運転に関する取り組み

ア. 事故件数は5件でした（2022年度は8件）。件数としては減りましたが、通行人への接触や民家、電柱への衝突など重大事故が見られ、事故当事者に対して安全運転管理者や事業所責任者より聞き取りを行いました。事故状況や再発防止策については、全体に向けて迅速に発信し、同種同様の事故を防ぐよう努めました。

イ. 安全運転講習を実施し、シミュレーター動画を活用して危険予測について学びました。

④事故・苦情への意識向上に向けた取り組み

当初計画していた報告書の使い方や対応フローの勉強会については、具体的な取り組みには至りませんでした。職員からの提案を受け、利用者所在不明時の初動について、全事業所を対象に訓練を企画・実施し、マニュアルの見直しにつなげることができました。

(3) 安全衛生委員会報告

①活動方針

施設の入居者、利用者および職員の安心、安全が保たれ、生活環境や職場環境がよりよい状態であるように健康診断の実施や、新型コロナを中心とした感染症予防対策を行いました。また、職員の安全衛生への意識を高め、知識やスキルを習得できるような研修を実施しました。活動方法としては、実施事業ごとに担当を決め、各事業につき責任を持って行いました。

委員会には法人全体からメンバーが集まっていますので、事業所間連携の意識高揚への一助にもなりました。

②定期健康診断

ア. 入居者健診 実施時期8月 受診者数 ケアハウス・特養 計96名

イ. 職員健診 実施時期9月、10月 受診者数126名 実施機関 医療法人朋愛会

ウ. 職員個別健康相談

健診結果に基づき、有所見の職員に対し産業医により個別面談を実施しました。23名が対象となり、年度内に全員面談を終了しました。また健診結果以外にも、健康状態を保持することに困難を感じる職員に対し、都度個別面談が行われました。

③インフルエンザ関連

ア. 予防接種実施状況 計242名（入居者、利用者、職員など）

イ. 発症状況 施設利用者や職員のインフルエンザ発症者が少数ありました。昨年度との比較で

は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、感染対策への意識が多少減少したなどの影響が考えられます。

④コロナ等対策

5類に移行したことに伴い、数年間見合わせていた各種行事が再開された他、外部からの来訪への制限も緩和されました。しかしながら完全収束となっていないことを踏まえ、予防対策は継続してきました。

⑤研修実施状況

ア. A E D救急救命研修（四條畷消防署による）17名

イ. 感染症対策研修12名

（4）地域交流委員会

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、るうてるフェスタを開催することができました。また、ボランティア受け入れも再開することができました。

①るうてるフェスタの開催

危機管理委員会と共同し、「三災 地震 火災 風水害 その時あなたは どうする？」というテーマですすめました。防災の講話やパッククッキングの実習などを行いました。障がい事業所8施設が参加くださり、自主製品の販売活動を通じて交流をもつことができました。RO委員会とのコラボでは、るうてるホームの広報活動として、インスタグラムの集客を行いました。他にも認知症支援ケアワーキングチームによる認知症の講話、ケアハウスの作品展、バザーやボランティアによる歌と太鼓演奏など行い、地域の方との交流があり220名ほどの来場者がありました。

②一般行動主事業計画の策定（次世代育成推進法・女性活躍推進法）

これまで次世代育成、女性活躍推進法の申請時期が異なっていたため、申請を一度で行えるように時期の調整を実施しました。女性活躍推進法行動計画では、計画を引き継ぎ女性職員へのアンケートの実施、長く勤められた要因等の方法を把握することを目標といたしました。

③ボランティアの受け入れ

新規では、元介護職の職業復帰に向けた短時間ボランティア、グリーンケア卒業生による傾聴ボランティア、YouTube 体操教室ボランティアの受け入れを行いました。また、新型コロナウイルス感染症以前よりきていただいていたギター生演奏や、踊り、紙芝居などのボランティアが多く関わってくださいました。

（5）RO委員会

委員会では、主に法人の広報活動と、職員が楽しめる企画を立案しています。

①ホームページの充実

るうてるホームにアクセスする最初の窓口がWEB ページであることを常に意識し、利用者、職員、その他ステークホルダーが情報を得ることができるツールとして、内容を充実させる必要があります。2023年度新規入職職員4名に対して、アンケートを実施し、全員からるうてるホームに就職する決断やきっかけのひとつに「ホームページが魅力的であったから」との回答を得ました。若い世代の就職希望者のニーズを意識し、るうてるホームで働きたいと思えるような情報発信を行いました。2本のテレビ番組出演（「ウェークアップ」、「関純子アナのゴーゴー体操」）をホームページ上で紹介し、ホームの宣伝活動に繋げることができました。

②SNS の活用

2023年度はSNSでの発信に重きをおき、年間で50本近くのInstagramの投稿を実施しました。また、理事長による”ジョージのつぶやき”X（旧Twitter）でも23本の投稿をして頂きました。また、数年ぶりに開催された“るうてるフェスタ”では、RO委員会専用のブースを立ち上げ、さまざまな来訪者に向けてホームページの紹介を行い、その場でるうてるホームのSNSをフォローしていただいたら景品をプレゼントする企画を実施し、一日で50名以上の新規フォロワー獲得に成功しました。

③るうてるホームを面白くする活動

新型コロナウイルス感染症の猛威が収束したことで、職員の積極的な交流の機会を模索し、エンゲ

ージメントを高める活動の検討を行いました。年度内に具体的な活動は実施できませんでしたが、来年度に向けての数種類の企画立案を行いました。

(6) ComeHome プロジェクト（人材確保）

①活動方針

新規採用が安定して確保できる仕組みづくりについて検討を重ねてきました。活動を通じて働きたい職場づくり、魅力的な職場について議論を重ね、自分たちの言葉でうるうるホームの良さを表現、実現できるチームを目指してきました。

②活動状況

ア. 就職活動を行う学生にとって魅力的なインターンシップの内容や広報について検討を開始し、次年度の受け入れに向けてすすめてきました。

イ. R0 委員会と共同し、ホームページでインターンシップの申し込みができるように検討してきました。

ウ. 求人ポスターの作成に着手しました

エ. 実習を通じて教職員との関係づくりに尽力しました。

③人材確保についての活動内容

ア. 大学等の実習の受け入れ 7校

イ. 就職フェアなどへのブース出展 1回

ウ. 法人説明会・見学会の開催 1回（うち採用1名）

エ. 職場体験 6名（うち採用2名）

3. チャプレン報告

「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である。」（ネヘミヤ記 8:10）

うるうるホームの玄関に掲げられている『洗足のキリスト』（切り絵とステンドグラス）が私たちのミッションを眼に見えるかたちで明らかにしています。私たちはお客さま一人ひとりのニーズに対して心をこめて仕えてゆきます。そのことは1965年のうるうるホームの設立以来、59年間変わることなく受け継がれてきました。2023年度は、2020年度から始まった新型コロナウイルス感染症のパンデミックが次第に収束してゆく中で、感染防止対策を行いながら、注意深く歩んだ一年でありました。この一年も様々なことがありましたが、うるうるホームがここまで守られてきたことを神に感謝いたします。

(1) 「礼拝 (God' s Service)」 中心の働き

①主日礼拝（忍ヶ丘集会）

2023年度は、ケアハウスの入居者のみで二階で礼拝を行った場合はありましたが、昨年のように礼拝が休会となることはありませんでした。毎週日曜日の午前10時半には、JELC 大阪教会のYouTubeでのライブ中継を館内の「うるうるネットワーク」で配信しています。そのためには希望者には毎週大阪教会の礼拝週報と説教要旨を配布しています。ご奉仕くださる地域の牧師先生にご尽力いただいていますことを心から感謝いたします。同時に先生方を忍ヶ丘礼拝に派遣してくださっている諸教会にも感謝いたします。

2023年度の特筆すべき大きな喜びは、5月28日（ペンテコステ）に忍ヶ丘礼拝でケアハウス入居者のK氏の洗礼式が行われたことでした。

忍ヶ丘礼拝 2023 年度実施状況(2023 年の 1-3 月は 2022 年度に入りますが参考までに挙げています)

	23/ 1 月	23/ 2 月	23/ 3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 週	/	21	27	30	29	28	25	0	0	0	28	29	33	27	26
2 週	28	19	30	30	33	36	35	34	30	23	32	31	30	31	25
3 週	15	16	30	30	31	27	27	38	31	27	25	26	16	35	33
4 週	16	31	31	31	38	34	36	32	18	31	38	40	20	27	34

5 週	17	/	/	36	/	/	32	/	/	32	/	28	/	/	38
合計	76	87	118	157	131	125	155	104	79	113	123	154	99	120	156
平均	19	22	30	31	33	31	31	35	26	28	31	31	25	30	31

担当牧師の都合により 8 月、9 月、10 月と三度礼拝が休止となりましたので、出席者は 0 と記されています。

②毎朝の礼拝

『聖書日課』を用いて行われている「毎朝 9 時からの礼拝」も、主日礼拝と同じく休止はほとんどありませんでした。

③葬儀・告別式

2023 年度はチャプレンの司式によってホームでご葬儀をなされた方は特養入居者の 3 名でした。

④聖書研究会

原則として月 2 回の水曜日の午後に聖書研究を行いました。

⑤召天者記念礼拝

11 月に入居者と職員による対面のかたちで行われました。今年は久しぶりにご遺族をお招きすることができました。

(2) その他の働き

①牧師懇談会・・・7 月に 4 年ぶりに牧師懇談会を行うことができました。

②上智大学グリーンケア研究所実習・・・受講生 1 名によるスピリチュアルケア実習が行われました。

③職員との関わり・・・4 月に大阪教会において 5 名の新入職員を対象に祝福式を行いました。11 月にはスピリチュアルケア研修会を上智大学グリーンケア研究所より先生をお招きし、「セルフケア」についての研修を行いました。

④ジョージのつばやき・・・2020 年 8 月から続いている「ジョージのつばやき」(X エックス) ですが、二週間に一度の更新により既に 90 の記事がアップされています。

4. ケアハウスるうてる

(1) 運営状況

新型コロナウイルス感染症の 5 類移行を受け、活動的な生活を送る環境になりました。趣味の会では、「100 歳体操の会」が自発的に発足されました。毎回 15 名程度の参加があり、体を動かす機会に、入居者が誘い合わせる等新たな繋がりができています。手芸の会では、入居者同士で得意分野を教え合い、新たなジャンルに挑戦する機会も生まれています。歌の会では、楽譜、キーボードの準備から、歌の指導まで、入居者で賄われています。趣味の会全体に、職員の支援が少なくなり、入居者が協力し合いながら、新しい展開を迎えています。

2023 年度は、退居者 6 名（特養 4 名、自宅 1 名、家族 1 名）がありましたが、満室を維持することができました。2 月には一度に 3 名が退居となり、満室の維持が危ぶまれる時期がありました。これにより利用者獲得の意識を持ち、情報発信の必要性があることがわかりました。

(2) 事業実績

①利用状況

	2023 年度	2022 年度	差異
利用者数（延べ）	18,000 人	18,000 人	0
入院日数（延べ）	247 日	444 日	▲197 日
短期入所利用日数	252 日	511 日	▲259 日
稼働率／対実員	98%	95%	3%
事業収入	82,613 千円	80,469 千円	2,144 千円

②入居者の現状（2024 年 3 月 31 日現在）

	60-69 歳	70-79 歳	80-89 歳	90-99 歳	100 歳以上	計
男性	1	3	4	1	1	10
女性	0	4	18	18	0	40

※最高齢：男 98 歳／女 96 歳 ※平均年齢：男 80.8 歳／女 87.0 歳

③介護度状況（2024 年 3 月 31 日現在）

	要支 1	要支 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
男性	1	1	0	1	1	0	0	4
女性	5	4	6	11	2	2	1	31

④介護保険利用状況（単位：人）

	2023 年度	2022 年度	差異
訪問介護	253	216	37
訪問リハビリ	34	30	4
通所介護	248	246	2
福祉用具レンタル	268	220	48
訪問看護	20	0	20
短期入所	14	28	▲14
介護タクシー	1	0	1
計	838	740	98

5. 特別養護老人ホームるうてるホーム

（1）運営状況

特養事業部では3名の新入職員が配属され、新たなケアマネジャーの配置、主任の人事異動がありました。職員全体でこれまでの人材育成を振り返り、そこから得た課題をもとに目標の進捗を共有し、働きやすい職場環境をつくることに取り組みました。新人も含め新たに加わった職員はそれぞれが役割を意識しお互いをフォローしながら成長につなげることができました。人材確保につきましては、新人の3名以外にも7名の非常勤職員が新たに加わりましたが、経験のある常勤3名（内1名は非常勤として再雇用）、非常勤6名が退職となり、職員の定着は毎年の課題となっています。

9月には新型コロナウイルスによるクラスターも発生しましたが、これまでの経験で学び得た対策が十分に発揮され、一人の入院者を出すことはありませんでした。また、同時期に大阪府による運営指導も執り行われましたが、特に大きな指摘事項もなく終えることができました。

そういった中で年間稼働率、入院日数、所定外労働前年比削減の事業目標を達成することができました。昨年度より意識して取り組んだ強い組織というのが形となり結果として表れています。職制が各ユニットリーダーへ権限移譲し、各々が課題に対して主体的に行動することにより、想定外のことにも対応できるようになっています。

（2）事業実績

	目標	2023 年度	2022 年度	目標との差異
のべ利用者数	17,568 人	17,801 人	17,528 人	273
稼働率	96.0%	97.3%	96%	1.3%
平均介護度	—	4.1	4.0	—
事業収入	265,500 千円	277,014 千円	272,352 千円	11,514 千円

※年間入院日数 492 日（上半期 279 日、下半期 213 日）目標 500 日

※年間空室数 4 日（すべて退居者の残留物引取期間のもの）目標 50 日

※新規入居者数 8 名、退居者数 8 名 昨年度 13 名/13 名

利用者の現況（2024 年 3 月 31 日現在）カッコ内は 2022 年度

利用年数	～1 年	1～4 年	5～9 年	10～14 年	15～19 年	20 年～	計
男	1 (4)	10 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (11)
女	6 (7)	20 (19)	8 (5)	0 (1)	3 (2)	0 (1)	38 (37)

6. ショートステイるうてる

(1) 運営状況

稼働率は昨年度の過去最高実績をさらに上回る結果となりました。年間稼働率 91.6%という数値の要因としては、安定した定期利用者が長期利用へとニーズを変え、その確保が継続できたことです。また、利用者からのニーズに真摯に向き合い少しでも満足していただけるよう取り組んできたこと、利用者だけでなく家族やケアマネジャーからの信頼を得たこと、それぞれ少しずつの積み重ねが大きな要因となりました。ここ数年掲げていた強い組織が形となり結果へと表れています。

不定期から定期での利用になり、さらにはニーズに合わせた長期利用へとつながっていくことが定着してきました。

年間を通じて新型コロナウイルス感染者を一人も発症させなかったこともあり、9 月には過去最高稼働率 94%を達成しました。特養への入退居が例年よりも落ち着き、事業部全体でも過去最高の実績となりましたが、ショートステイの実績が事業部全体の安定につながるということが数字からも表れています。ショートステイ 20 床でのフル稼働がいかに重要であるかを再認識することができました。

(2) 事業実績

	目標	2023 年度	2022 年度	目標との差異
のべ利用者数	高齢 4,758 人	5,090 人	4,489 人	246 人
	障害 1,464 人	1,614 人	1,717 人	257 人
稼働率	高齢 63.0%	69.5%	61.5%	3.5%
	障害 22.0%	22.1%	23.5%	3.5%
事業収入	81,020 千円	77,031 千円	68,089 千円	11,733 千円
		15,722 千円	17,364 千円	

※1 日当たりの平均利用 18.3 人（高齢 13.9 名、障害 4.4 名）でした。

※1 か月を超えて利用された方は、高齢 22 名、障害 2 名でした。また、緊急利用はのべ 7 名でした。

※年間利用実人員数は、高齢 295 名（男 66、女 229）、障害 194 名（男 123、女 71）でした。

※新規利用者は高齢 18 名、障害 5 名でした。

7. デイサービスセンターるうてる

(1) 運営状況

2023 年度は 1 名が異動、3 名が退職（うち 1 名は契約満期修了）、新たに 5 名の職員が配属されました。体調不良による欠勤や運転員の欠員などが影響し、職員配置が安定しないこともありましたが、徐々に人員体制が整う中で、業務の見直しをすすめることができました。

事業においては「利用者獲得・定着の取り組み」として、自立度の高い方を特定の曜日に集めて特色を出す取り組みを継続しました。プログラムについては、コロナ対策の緩和に合わせて活動性が上がるよう取り組むとともに、ボランティアの受入れを再開しました。利用休止者については状況を確認し、登録者の見直しを行うとともにケアマネジャーと連携し、認知症のある方への個別対応を充実させることで利用率向上を目指しました。また、SNS を活用した広報活動に着手しました。

「業務改革による働きやすい環境づくり」の一環として法人内プロジェクトと連動して課題整理を行い、タブレットや非接触型バイタル機器の導入を行いました。また、事務員との連携により、書類作成のデジタル化や書類様式の見直しをすすめ、業務負担軽減を図りました。朝の業務についても見直しを

すすめ、業務実態に合わせて出勤時間を一部変更しました。相談員の業務環境についても、見直しに着手することができました。

「組織強化」については、簡易版ではありますが事業継続計画を策定しました。主任の役割整理・共有については、意見交換はしたものの可視化するには至りませんでした。また、必要な書類が一部作成されておらず、業務遂行手順の見直しを行いました。

「地域連携・地域貢献」については、通所型サービスC利用修了者を対象として、フォローアップと福祉人材の発掘を目標に「同窓会」というイベントを実施しました（修了者11名参加）。修了者1名がサポートスタッフとして3ヶ月ほど通所していただきました。また、テレビ取材を受け、事業が広く認知される契機となりました。

（2）事業実績

通所介護、第1号通所型サービス（定員35名）

	目標	2023年度	2022年度	目標との差異	前年との差異
のべ利用者数	9,610人	8,739人	8,674人	▲871人	65人
稼働率	88.0%	80.0%	79.2%	▲8.0%	0.8%
事業収入	89,712千円	82,880千円	80,908千円	▲6,832千円	1,972千円

※体験利用者数…28人（22年度31人）、新規利用者数…21人（22年度23人）

通所型サービスC（定員10名）

	目標	2023年度	2022年度	目標との差異	前年との差異
のべ利用者数	360人	328人	245人	▲32人	83人
稼働率	75%	68.3%	53.3%	▲6.7%	15%
事業収入	2,008千円	1,866千円	1,469千円	▲142千円	397千円
人件費（他法人支出分）	1,100千円	969千円	936千円	131千円	33千円

※のべ利用者数には事前・延長前・終了前訪問を含む

8. ジョイフルるうてる

（1）運営状況

2023年度は、「地域における役割」を再考する一年と位置づけ、利用者や利用者を取り巻く環境に目を向けチーム全体でサービスの質向上を目指しました。

「サービスの質向上」の一環として欠席の傾向を把握するとともに、予め対策を講じられそうな事案については、他事業所や相談支援専門員と情報共有を行いながら、アプローチを試みました。就労継続支援B型においては、事業所方針や個別ケース、工賃評価などに関する議論を通じて、改めて私たちの役割を再考しました。勉強会については、緊急時対応、虐待防止など、職員が積極的にテーマを決め、月1回実施しました。「伝わり方」については、連絡ノートやケース記録などを用いて相互点検を行い、職員間で意見交換を行うよう努めました。生活介護におけるタブレットを活用したプログラムや介護機器の検討については、次年度に持ち越しとなりました。

「業務改革による働きやすい環境づくり」の一環として、法人内プロジェクトと連動して課題整理を行い、タブレットや非接触型バイタル機器の導入につなげることができました。会議体については人材育成の観点からメンバーを見直しましたが、会議の効率化や時間管理については課題が残りました。

「組織強化」については、簡易版ではありますが事業継続計画を完成することができました。法令については都度職制で認識を共有するよう努めました。主任の役割整理や苦情対応力の向上については課題が残りました。

「地域連携」については、イベントへの参画を通じ他法人や地域の方々と接点をもつよう努めました。

(2) 事業実績
生活介護（定員 10 名）

	目標	2023 年度	2022 年度	目標との差異	前年との差異
のべ利用者数	3,302 人	3,057 人	3,189 人	▲245 人	▲132 人
稼働率	128%	118.5%	123.1%	▲9.5%	▲4.6%
事業収入	40,135 千円	38,249 千円	39,197 千円	▲1,886 千円	▲948 千円

※新規…1 名、体験利用…1 名、利用終了…2 名（介護保険サービスへ移行）

※欠席…401 名（所用 31.8%、入院…23.8%、体調不良…19.4%、通院…17.6%）

就労継続支援 B 型（定員 10 名）

	目標	2023 年度	2022 年度	目標との差異	前年との差異
のべ利用者数	1,928 人	1,213 人	1,565 人	▲715 人	▲352 人
稼働率	75%	47.2%	60.7%	▲27.8%	▲13.5%
事業収入	14,210 千円	10,032 千円	11,489 千円	▲4,178 千円	▲1,457 千円

※平均工賃…12,737 円（22 年度 6,638 円）、24 年度の制度改定で計算方法変更

※新規…6 名、体験利用…2 名、利用終了…2 名（企業、他事業所移行）、欠席…315 名

9. ヘルパーステーションるうてる

(1) 運営状況

法人内介護職を一体とした事業運営に向けて、“自立と自律”をテーマに、個々の持ち味を今以上に引き出せる環境づくりを行いました。変わらぬ方針である“心を届ける介護”を軸に、意見交換ができるよう努めました。

2023 年度の重点課題として、特定事業所加算Ⅱの取得と事業継続計画策定を行いました。特定事業所加算Ⅱの取得については、前年度から課題であったサービス提供記録簿の項目見直しと、研修、会議の定期開催ができ、11 月より取得できました。ヘルパー会議を毎月開催することで、ヘルパーの質的向上と活動の活性化につながっています。事業継続計画の作成については、感染症全般と自然災害の計画書が完成しました。

法人内での働きとしては、ケアハウスの新型コロナウイルス感染症蔓延にともない、館内の消毒やケア提供などの協働を行いました。

(2) 事業実績

①介護保険

	目標	2023 年度	2022 年度	目標との差異
利用者数（月ごとのべ人数）	720 人	594 人	559 人	▲126 人
のべ訪問回数	6,480 回	6,678 回	5,979 回	▲198 回
事業収入	25,325 千円	27,899 千円	23,129 千円	2,574 千円

②障害者総合支援

	目標	2023 年度	2022 年度	目標との差異
利用者数（月ごとのべ人数）	84 人	96 人	95 人	12 人
のべ訪問回数	1,900 回	2,136 回	1,952 回	236 回
事業収入	11,320 千円	10,070 千円	9,913 千円	▲1,250 千円

③その他

	目標	2023 年度	2022 年度	目標との差異
移動支援	36 回	59 回	69 回	23 回
子育て支援	8 回	16 回	-	8 回
有償	240 回	148 回	345 回	92 回

10. ケアプランセンターるうてる

(1) 運営状況

相談しやすい環境づくりとして、「明るい雰囲気づくり」をチーム作りの核として進めてきました。法人内の情報共有も、出来る限り顔を合わせて共有できるようコミュニケーション取りに足を運ぶよう努めています。「明るい」という表現は、チームで共通イメージを持つことが難しく、所内で振り返り、“用事がなくとも気軽に寄ってもらえる環境づくり”と、“所内で遠慮せずに何でも言い合うこと”を課題として捉えました。

書類整備を年に2回の開催を計画していましたが、全体的に実行するまでの準備として、個々に整備を行いました。相互点検は次年度の課題とします。また、介護保険請求について学ぶ勉強会を総務部と一緒に企画し開催しました。さらに、課題やテーマ別の検討を今後行うため、困難事例の共有と意見交換を月に1回程度行いました。研修参加についても、目的意識をもって受講できることで、考察を深められるよう、事前に参加目的を書くよう取り組みました。次年度は研修内容と考察を共有していきます。

担当件数が増えたことや、地域に出向いて関係機関との連携を取るよう努めました。無理の言い合える関係を作り、利用者の選択肢や目標に向けたサービスを協働して開発できる土壌づくりが進んだと考えます。

非常災害時対策については、自然災害の事業継続計画が完成しました。事業部内で先行して作成しているため、ヘルパーステーションと地域包括へ情報提供を行いました。

人材確保・育成のための取り組みについては、募集のちらし作りや、介護支援専門員実習の受け入れ、法人内の介護支援専門員交流会への参加をしました。

(2) 事業実績

①介護保険 居宅介護支援・介護予防支援

	目標	2023 年度	2022 年度	目標との差異
介護ケアプラン数	1,188 件	1,294 件	1,284 件	106 件
介護予防ケアプラン受託数	276 件	246 件	297 件	▲30 件
一人あたり請求件数/月 ※1	33.5 件	35.8 件	36.1 件	23.0 件
一人あたり支援件数/月 ※2	37.0 件	39.0 件	39.9 件	2.0 件
事業収入	25,850 千円	22,365 千円	22,395 千円	▲3,485 千円

※1…一人あたり請求件数=(要介護ケアプラン数+介護予防ケアプラン÷2)÷(常勤換算値)/月

※2…一人あたり支援件数=(要介護ケアプラン数+介護予防ケアプラン)÷(常勤換算値)/月

※常勤換算値…3.3 名

②障害者総合支援 計画相談支援

	目標	2023 年度	2022 年度	目標との差異
プラン数	240 件	322 件	294 件	82 件
請求件数	72 件	84 件	74 件	12 件
事業収入	1,570 千円	1,337 千円	1,289 千円	▲233 千円

11. 四條畷第1 地域包括支援センター

(1) 運営状況

職員の異動や入退職により、人員体制が安定しませんでした。体制変更はありましたが、「主体性を持って関わり合えるチーム」をテーマに、新職員の育成計画を実施しました。職員全員が主体的に、自分の育成経験をもとに、事業の考え方など根本的な意義を考え、相互の育成に関わりました。

今年度は、介護予防教室の開催数を増やしました。データを活用して、課題が根拠を持って抽出できました。抽出された課題である口腔・栄養の課題に着目し、歯科衛生士や管理栄養士と協働し、介護予防教室の開催を行うことができました。

11月に読売テレビ「ウェークアップ」に、当センターの ICT 活用のモデル事業が取り上げられました。反響として、介護保険「通所型サービスC」の利用相談が増えました。また、他県のサービス事業所

や大学院生から、自立支援の考え方についての問い合わせがありました。平成 29 年以降自立支援について真摯に考え、事業実施をした結果であると考えます。

(2) 事業実績

①地域包括支援事業

		2023 年度	2022 年度
総合相談支援事業	総合相談件数	626 件	506 件
権利擁護事業	権利擁護に関する相談	5 人	12 人
	高齢者虐待に関する相談	2 人	11 人
包括的継続的ケアマネジメント業務	介護支援専門員からの相談	51 件	33 件
	研修会	0 回	1 回
	ネットワーク会議	33 回	35 回
介護予防事業	介護予防教室	8 回 (68 人)	3 回 (39 人)
地域介護予防活動支援事業	通いの場開催 直接的支援	22 回 (41 人)	13 回 (26 人)
	通いの場への専門職派遣	4 回 (66 人)	4 回 (70 人)
	ボランティア活動支援等	11 回 (39 人)	11 回 (39 人)
任意事業	家族介護教室	0 回 (0 人)	1 回 (3 人)
	介護者家族交流会 開催支援	0 回 (0 人)	0 回 (0 人)
	認知症に関する教室・講演会	1 回 (16 人)	0 回 (0 人)
	認知症サポーター養成講座 (うち、ジュニアサポーター養成講座)	5 回 (59 人) 4 回 (154 人)	4 回 (22 人) 10 回 (388 人)
	認知症サポーターステップアップ講座	2 回 (12 人)	4 回 (27 人)
地域ケア会議	個別地域ケア会議	10 回	9 回
	圏域地域ケア会議	16 回	15 回
	自立支援型地域ケア会議	3 回	3 回

②指定介護予防支援・第 1 号介護予防支援事業（介護予防ケアマネジメント）に係る事業

ア. 2023 年度実績

	介護予防支援	介護予防ケアマネジメント
ケアプラン作成数	1,295 件	602 件
うち委託件数	1,105 件	470 件
うち自事業所作成件数	190 件	132 件

イ. 昨年との比較及び目標との差異

	目標	2023 年度	2022 年度	目標との差異
ケアプラン作成数	2,400 件	1,897 件	2,075 件	▲503 件
うち委託件数	1,884 件	1,575 件	1,634 件	▲309 件
うち自事業所作成件数	516 件	322 件	441 件	▲182 件
事業収入（概算）	3,408 千円	2,420 千円	3,035 千円	▲988 千円

12. 栄養

(1) 運営状況

2023 年度も、「食えること」の重要性を第一に、安心・安全な食事を通して健康維持が実現され、その人らしい生活を続けていくことができるように支援していくためのサービス提供に努めました。

また、生活の楽しみや潤いの一環となるような食事提供ができるよう、利用者満足度の向上にも注力しました。

コロナに関しては、前年から比べると徐々に影響も小さくなり、以前に近いようなイベントや行事としての楽しみを提供できる食事の機会も増やすことができました。

災害対策については、非常食の整備を行いました。今年度もコロナの発生はありましたが、献立変更や使い捨て容器の活用など、実践での対応も混乱なく行うことができました。

今後の課題として、物価高騰による食材への影響や、水光熱費増額への対応策の検討、食数システムの見直しなどを継続していきます。

(2) 事業実績

事業所		上半期	下半期	2023 年度合計	2022 年度合計	2021 年度合計
ケア	実食数	24,412	24,426	48,838	45,591	46,378
特養 短期	実食数	32,667	32,864	65,531	61,784	59,405
	経管	2,629	2,857	5,486	6,021	5,961
デイ	食数	4,432	3,991	8,423	8,331	8,538
障害	食数	1,784	1,856	3,640	3,605	3,526
配食	食数	19	108	127	248	583

13. 事務課

(1) 運営状況

2023年度は、事務室の人員構成の変化に伴い、業務内容や業務遂行の体制を改めて見直し、革新を図ることにより、大きな変化を目指した1年でした。変革については、現在進行中ですが、見直しは徐々に進んでおり、改善、改良ができていく部分もできてきました。

第3期中期経営計画の折り返し点であり、報酬改定や保険者変更などの大きな課題がある中、着実な収益確保が可能な体質の確立を目指し、各事業部の業務推進を支援していくことにより、今年度は昨年に引き続き、収支面でプラスの結果を残すことができました。

物価高騰の影響はあらゆる支出の増加につながりましたが、一部助成金もあり、支出増の緩和になりました。10月にはホームの移転後10年が経過し、設備、備品などの、経年による故障や劣化も出始めて、修繕費や備品購入の支出が必要になりました。

総務としての業務運営については、他事業部の運営に支障をきたさないように、体制の構築を進めているところです。

(2) 事業実績

①収入状況

(単位：千円)

	予算	決算	予算対比(%)	2022 年度	2021 年度	2020 年度
介護保険等	399,779	392,817	98	376,481	366,290	358,699
利用料	156,657	155,040	99	153,251	149,362	143,228
診療報酬	5,135	5,083	99	4,266	4,912	4,453
自立支援	79,655	76,469	96	75,421	69,449	64,975
補助金・委託料	51,450	49,836	97	52,471	43,631	53,346
その他	3,491	10,157	200	8,472	10,079	6,056
合計	696,167	689,402	99	670,362	643,723	630,756

②支出状況

ア. 総合支出

(単位：千円)

	予算	決算	予算対比(%)	2022 年度	2021 年度	2020 年度
人件費	450,338	450,598	100	427,291	417,437	412,099
事務費	66,912	63,769	95	58,395	55,547	57,384
事業費	92,430	86,968	94	89,420	78,981	79,903
借入金返済	51,312	51,312	100	51,312	51,312	51,312
返済利息	7,350	6,987	95	7,347	8,905	9,323
その他	17,852	18,181	101	5,159	5,243	8,500
合計	686,194	677,815	99	639,924	618,425	618,521

14. 四條畷市委託事業

(1) 運営状況

リネンサービス、外出支援移送サービスともに、利用がありませんでした。生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）事業は、受託して5年目となりました。住民主体で、元気を維持できるように通いの場開催支援や、担い手づくりに力を入れました。また、るうてるホーム内で、活動周知をする機会を作りました。

(2) 事業実績

①リネンサービス

	2023 年度	2022 年度	差異
のべ対象者数	0 人	6 人	—
のべ枚数	0 枚	27 枚	▲27 枚
事業収入	0 千円	25 千円	▲25 千円

②外出支援移送サービス

	2022 年度	2021 年度	差異
利用実人員	0 人	0 人	—
延べ利用者数	0 人	0 人	—
事業収入	0 千円	0 千円	—

③生活支援コーディネーター

	2023 年度	2022 年度
生活支援協議体関連	7 回	19 回
地域活動	30 回	53 回
各種研修	1 回	0 回
各種会議等	11 回	9 回